



地域医療連携ニュース

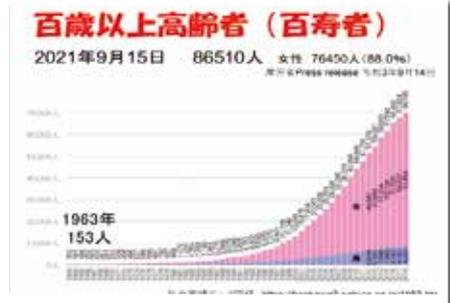
発行：兵庫県立加古川医療センター 〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地 <http://www.kenkako.jp/>
TEL：079-497-7000(代表) TEL：079-497-7011(地域医療連携部直通) FAX：079-438-3756(地域医療連携部直通)

● 東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク会議/第16回地域医療連携会議・・・ 1	● 形成外科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
● 循環器内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2	● 消化器内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
● 脳神経内科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3	● 内視鏡センター/肝疾患センター・・・・・・・・ 7
● 皮膚科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4	● 外来診療表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

東播磨骨粗鬆症地域 連携ネットワーク会議

年に3回開催している東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク会議を昨年度に引き続き、WEB（Hybrid方式）で、10月14日に開催しました。23施設、64名の多職種の方々の参加がありました。

今回は、<リウマチ疾患と骨粗鬆症>をテーマに、大阪南医療センター 橋本淳先生に講演して頂きました。講演の内容は、人生100年時代と言われ、全人的医療が必要であることや、骨折予防の成功を目指すためには、腰椎・大腿骨骨密度の測定や栄養摂取の大切さを住民に伝えていくことなどでした。この講演は、日本骨粗鬆症学会から認定された、日本骨粗鬆症学会認定医と骨粗鬆症マネージャーの教育研修単位付与研修であり、有意義な講演会となりました。



第16回地域医療連携会議

10月21日に加古川市民会館での参加とオンライン参加による第16回兵庫県立加古川医療センター地域医療連携会議を開催しました。今年は、原田院長から「加古川医療センターの現況2021～新型コロナ拠点病院の2年目～」、足立地域医療連携部長から「コロナ禍における新型コロナウイルス感染症拠点病院・地域医療支援病院としての当院の取り組み」についての講話と各診療科の紹介をさせていただきました。

これからも、皆さま方と信頼関係を築き、地域の安心・安全な医療に貢献していきます。



第13回県かこ県民フォーラム 開催予定です。
令和4年1月15日（土）14時～16時 加古川市民会館（中ホール）

循環器内科

循環器内科部長 岩田幸代

いつも診療ではお世話になっております。色々と力不足の点が多くご迷惑をおかけしております。

循環器内科はこの1年半、コロナ診療を行いながら細々と循環器診療も行ってまいりました。コロナ禍を経験して痛感するのは、患者さんご自身のセルフケア、健康意識を高めることが健康にはとても重要だということです。

今後ももう少しコロナ診療は続けていかなければなりません、そんな我々に何かできることはないかと考えました。従前の「禁煙」「睡眠時無呼吸」に加えて「からだ年齢健診」を行っていき、疾患予防と早期発見に努力して患者さんの健康維持にお力添えしたいと思います。



● からだ年齢健診 ●

月・火・木 14時から 約60～90分かかります。

費用3000円(自費)

医療機関の皆様から、地域医療連携部への予約となります。

当院診察券・保険証をご持参ください。

内 容

危険因子採血・心電図・血圧脈波・循環器内科医診察・フレイルチェック・栄養指導・体組成測定・循環器内科診察・自分でできる簡易トレーニングパンフ・介護保険豆知識

結果は受診後約2週間で お申込みいただいた先生のもとにお送りします。

不要不急の検診にはなりますが 健康寿命を延ばすために 患者さんご自身に体の状態をよく知ってもらい、自分で健康維持ができるように お力添えさせていただきます！

必要時は診察予約も取らせていただきます。

微力ながら頑張っていきますので よろしくお願いたします。



脳神経内科

脳神経内科部長 木村 健一

現在、当科は常勤医1名と非常勤医1名で診療にあたっております。加古川など東播磨地域でも脳神経内科医数が徐々に増加し、脳神経内科の認知度も増してきています。脳神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉に起こる病気の診断および内科的治療を行う診療科です。頭痛、脱力、ふるえ、しびれといったよくある症状を対象とします。気分や精神的な問題は心療内科や精神科が専門的に診療されます。

スタッフ

木村 健一（平成5年卒）

渡部 俊介（平成25年卒）（非常勤）

認定施設

日本神経学会准教育施設

主な対象疾患

- ① 脳血管障害：脳梗塞、一過性脳虚血発作や脳出血などがあり、脳神経外科とも連携し診療します。
- ② 神経変性疾患：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病など。
- ③ 神経免疫疾患：多発性硬化症や重症筋無力症など、免疫の異常で起こる病気でステロイドなど免疫抑制剤による治療を行います。
- ④ 神経感染症：脳炎、髄膜炎など、抗菌薬などで治療を行います。
- ⑤ 筋疾患：筋ジストロフィーや筋炎などがあり、大学病院等とも連携し筋電図や筋生検にて診断します。
- ⑥ 末梢神経疾患：神経伝導検査などにて診断し、遺伝性のものもありますが、ギランバレー症候群など免疫の異常で起こるものは免疫グロブリン療法など免疫療法を行います。
- ⑦ 発作性疾患：てんかん、片頭痛など脳波やMRIなどにて診断し、各病型に応じた薬物治療を行います。
- ⑧ その他内科疾患に伴う神経症状に対し診断、治療を行います。

脳神経内科は認知症、脳卒中、てんかんなど頻度の高い疾患も対象とします。当院の主な診療機能の一つに神経難病医療の提供を挙げていることから、当科では、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、重症筋無力症など、神経難病の診療向上に努めていきたいと考えています。今後とも宜しくお願い申し上げます。



皮膚科

地域医療連携部長 兼 皮膚科部長 足立厚子

2020年3月頃からコロナ禍が始まり、兵庫県感染症指定病院である当院にも、多くのコロナ患者さんが入院され、一時期新患受け入れ停止、病床もコロナ対応のために、一般病床は半数ほどに制限、手術も原則中止という状態になりました。その後対応策も整備されるようになり、コロナ病床を確保するために、病床数を3分の2まで制限したり、有熱患者さんはまずはコロナを除外する必要があるなど、懸念すべき点が多数ある中で、一般診療ができるようになりました。2021年10月現在第5波が収まってきたところです。当院において院内感染やクラスターを発生させなかったことは我々の誇りです。今はほぼ通常通りの機能を発揮できるようになり、楽しく診療をしています。普段の生活がいかに大切かを再認識しました。



スタッフ

常勤医：足立厚子部長、増田泰之医長、横山大輔医師、原田朋佳医師、北尾陸将専攻医。
非常勤医（外来のみ）：高井佳恵医師

認定施設

日本皮膚科学会教育認定施設。日本癌治療学会教育施設。生物学的製剤認定施設。

当院皮膚科の特色

スタッフ・医療機器・設備が充実しているうえ、ベッド数が14床と多く、外来加療困難例には入院加療を施行しています。

内科的疾患の治療

トピックス：アトピー性皮膚炎や乾癬は、治療の選択肢が激増し、治せる時代になりました。

特にアレルギー疾患が得意分野で、じんま疹、金属アレルギー、アナフィラキシー、重症型薬疹、ラテックスアレルギー、食物アレルギー、口腔アレルギー症候群、接触皮膚炎については、原因成分まで判定し、生活食事指導や代替品紹介をしています。一部の薬物アレルギーには減感作治療も施行しています。救命用自己注射用キット（エピペン）の処方が可能です。難治性アトピー性皮膚炎にはデュピクセント、その他難治性慢性蕁麻疹にはゾレアを使用し、軽快する患者さんが多くいます。乾癬・膿疱性乾癬・関節症性乾癬には従来のオクソラレン内服全身光線治療、全身ナローバンド照射とともに、近年使用可能となったオテズラ内服、多種類の生物学的製剤を適切に使用し、著効例が多くありました。乾癬は生活習慣病に伴う全身疾患と位置づけられています。個々の患者さんの生活や皮膚および全身状態に合わせ、各々の治療法に伴う副作用にも注意しながら適切な治療を心がけています。また膠原病、血管炎、類天疱瘡、天疱瘡などの自己免疫疾患、ベーチェット病などの疾患に悩む患者さんが多発しています。臨床・病理により迅速な診断・精査をし、入院も含めた加療・長期経過観察をしています。皮膚悪性リンパ腫には病型分類、病期にあわせて全身光線療法、化学療法、放射線療法を施行しています。

外科的疾患の治療にも力を入れています

皮膚悪性腫瘍には外科的手術、放射線治療、化学療法により集学的治療をしています。局所全摘術のみならずセンチネルリンパ節生検やリンパ節郭清も施行しています。外科的手術、時に炭酸ガスレーザーにより治療し、特に整容面の改善にも心がけています。陥入爪甲にはフェノール法や人工爪、形状記憶合金で加療しています。熱傷、重度感染症・壊死性筋膜炎、壊疽など、必要なときには当院救命救急センターでの全身管理をうけながらの対応が可能です。

研究会の御案内

加古川医師会の共催をいただき、毎年2回木曜日夕方に東播磨皮膚科研究会を当院講堂で開催しています。また当院褥瘡対策委員会主催の東播磨皮膚・創傷ケア研究会も、加古川医師会、播磨薬剤師会の共催により当院講堂にて毎年開催し、地域の医師、看護師、薬剤師、介護士、ケースワーカーの方々に参加いただいています。2022年1月27日には東播磨皮膚科研究会を開催し、神戸大学皮膚科新教授久保亮治教授の招待講演を予定しています。近くなりましたらご案内を差し上げます。多数の御参加をお待ちしています。

形成外科



形成外科部長 櫻井 敦

平素より貴重な症例をご紹介いただき誠に有り難うございます。今回は、皮膚科、整形外科の先生方を中心にご紹介頂くことの多い、爪周囲の病変についてご紹介させていただきます。(主な内容は地域連携会議での発表内容に準じております。)当科では指尖部損傷を扱うことも多く、外傷のイメージが強いかもしれませんが、指尖部の病変は爪甲変形の原因となることも多く、治療の際は変形を最小限にする工夫が必要となります。我々は機能面、整容面に配慮した治療を心掛けておりますが、その実際につき誌面で供覧させていただきます。

■ 粘液嚢腫

第1 (DIP) 関節の変形性関節症 (Heberden 結節) に続発し、関節周囲～爪甲基部に腫瘤を形成します。腫瘤形成、爪甲変形といった整容的变化だけでなく、自壊、自己穿孔を繰り返すことで化膿性関節炎を生じることもあるため、注意が必要です。かつては嚢腫切除後に局所皮弁で閉鎖する手技が行なわれ、我々の腕の見せ所でしたが、その本態は関節滑膜炎であるため、近年では嚢腫を温存し、炎症のある関節滑膜を切除する低侵襲手術が主流となっています。当科では、手術の際に顕微鏡を用いることで更なるダメージの低減を図っております。(スライド①・②)

■ グロームス腫瘍

皮膚の末梢循環を調整する glomus body に続発する腫瘍で、20～40代女性の手指、特に爪甲下に好発します。Carrollの三徴(疼痛、圧痛、寒冷に対する温度過敏性)が知られており、指先の疼痛を主訴に医療機関を受診する方が多くみられます。外表からはわかりにくいので、経過観察とされることが多いようですが、ある程度の大きさになれば、XpやMRIで診断がつきます。見た目にして疼痛が強いため、当科では積極的に手術治療を行っています。(スライド③・④)

■ 巻き爪

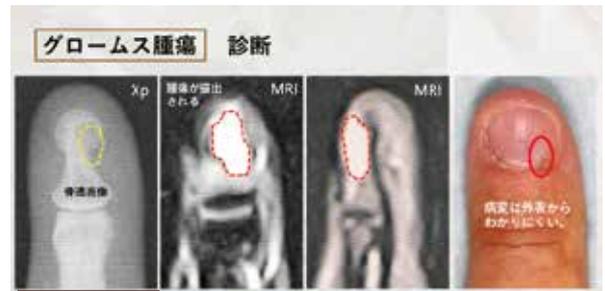
陥入爪と混同されることが多いですが、爪甲の変形が強く、時に骨棘を伴います。ワイヤーや人工爪等の保存的加療、薬品で爪母を焼灼するフェノール法では治療効果が得られない症例に対して手術療法を行っています。巻き爪や陥入爪は、爪の切り方や生活習慣、歩行状態にも影響を受けますので、術後も暫くは再発予防に努めるための経過観察が重要となります。(スライド⑤)



スライド①



スライド②



スライド③



スライド④



スライド⑤

消化器内科

診療部長 兼 消化器内科部長 **廣畑 成也**

特色

現在常勤スタッフ 6 名、専攻医 1 名で診療を行っています。7 月より白川 裕先生がスタッフとして復帰しました。

● 肝臓の治療法が大きく変化しています

当院は兵庫県肝疾患専門医療機関に指定され、東播磨地区の肝疾患診療の中心施設として位置づけられています。肝疾患センターを設置し、地域の先生方よりご紹介いただくあらゆる肝疾患に対応できるようにしています。肝臓に関しましては次々に新しい治療薬が開発され、特に昨年 10 月に認可されたアテゾリズマブ + ベバシズマブ併用療法により肝臓治療に大きな変化が起きています。今後もあらゆる肝疾患に最新の治療で対応すべく当地域の中核医療機関としての役割を果たしていきたいと思っておりますので引き続きのご紹介よろしくお願い申し上げます。

● 内視鏡による早期癌の診断と治療が進歩しています

消化管癌の早期発見、悪性度・範囲診断に欠かせない NBI 搭載内視鏡システムを 3 台常設し、常時拡大内視鏡にて精密な観察・診断を行っています。早期癌の場合、内視鏡的粘膜下層切開剥離術 (ESD) で 1 週間の入院で治療可能です。緊急例を含め今後も積極的に内視鏡検査に対応してまいりますので、症例のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

● 超音波内視鏡検査が充実しました

4 月より神戸大学の協力を得て超音波内視鏡検査の件数が大幅に増加しました。また超音波内視鏡下生検も積極的に行い脾腫瘍や胃粘膜下腫瘍の正確な診断が可能となりました。

● 上部内視鏡検査をお急ぎの時にご利用いただいていた「当日胃カメラ枠」は現在一時的に予約を停止しています。今後のコロナ感染状況を見てなるべく早期に再開できるよう調整しています。

<地域医療機関の先生方へ>

昨年来新型コロナへの対応のため一部診療を制限せざるを得ない状況が続き地域の先生方にはご不便をおかけしていましたが、ようやく本格的にコロナ禍以前の診療機能を取り戻しつつあります。今後とも、緊急例、診断困難例はもちろん、検査のみのご要望でも積極的に対応してまいりますので、ご遠慮なくご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

■ スタッフ

伊 聖哲	副院長兼肝疾患センター長兼消化器内科部長	昭和57年卒
廣畑 成也	内視鏡・超音波担当部長兼消化器内科部長	昭和60年卒
埴本 喜雄	内視鏡センター長兼消化器内科部長	平成6年卒
白川 裕	消化器内科医長	平成18年卒
岡田 寛史	消化器内科医長	平成25年卒
渡部 貴文	消化器内科医長	平成27年卒
森口 知憲	消化器内科専攻医	平成29年卒
戎谷 力	非常勤	平成15年卒



■ 検査・治療実績 (2020 年度)

上部消化管内視鏡検査	1776
緊急内視鏡(止血術含む)	68
緊急止血術	36
食道静脈瘤結紮術(EVL)	27
内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)	29
胃瘻造設術	4
下部消化管内視鏡検査	972
止血術	25
ポリープ切除術(EMR&ポリペク)	465
内視鏡的粘膜下層切開剥離術(ESD)	11
ERCP	99
胆道ドレナージ(ERBD/ENBD)	46
胆管結石碎石・除石術	34
EUS	43
EUS-FNA	4
小腸カプセル内視鏡	5
腹部超音波検査	2761
造影腹部超音波検査	48
肝生検	43
肝炎抗ウイルス療法新規導入	12
経皮的肝ラジオ波焼灼術(RFA)	30
経カテーテル的肝動脈塞栓療法	40
BRTO	3
肝臓分子標的薬導入	20

内視鏡センター

内視鏡センター長 兼 消化器内科部長 塚本喜雄

2018年4月1日に内視鏡センターが設立されてから3年が経過しました。2020年3月からはコロナ感染症対応に追われる日々であります。それでも内視鏡の必要な患者さんが減るわけではないので、withコロナ、afterコロナを考えて頑張っています。院内では消化器外科、救急科、総合内科などと広く協力しています。医療レベル向上のため神戸大学の胆膵グループから超音波内視鏡医を週1回派遣してもらったり、消化管病理の専門医を招いてカンファレンスを月1回開催したりしています。地域医療連携部を通して近隣の病院・医院への積極的情報発信の再開や、開業医の皆様から直接紹介して頂いて当日内視鏡を施行するシステムもコロナ禍で中断していましたが、再開を目指して調整中です。

内視鏡センターでは、最新の機種を取り揃えて最先端の技術を提供できるように準備して、日常診療では、見逃しの無い検査を行うためにハイスペックな拡大観察ができる内視鏡をほぼ全例に使用しています。また毎年受けても大丈夫なように安全で苦痛の無い内視鏡検査を心がけています。患者さんの不安をできる限り取り除けるように、またプライバシー確保にも心がけています。当院は、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設・日本消化器病学会認定施設に認定され、内視鏡専門医を目指す医師の教育・育成にも力を入れています。また治療では、ESDやポリペクやEVLなどの通常治療はもとより、緊急内視鏡（止血術や遺物除去など）から食道ステント・大腸ステント挿入などの緩和的処置まで対応しており、臨床的役割は多岐に及んでおります。

内視鏡の魅力の一つは、診断して治療するところまで自己完結できることでしょう。例えば、早期の胃がんを見つけて自ら内視鏡で治療できるところなどです。我々医師・看護師を含めた内視鏡スタッフは、内視鏡を通じて皆様の元気と幸せに貢献できることを目標に日々精進している次第です。



肝疾患センター

副院長 兼 肝疾患センター長 伊聖哲

当院は平成20年に肝疾患専門医療機関に認定され、肝炎・肝癌診療においては圏域の中核的な役割を担っています。急性肝炎・急性肝不全については、保存的治療のみならず肝移植の適否を決定するため、県域を越えて広域の診療機関から患者を受け入れるとともに、神戸大学病院と綿密な連絡を取り合っています。慢性肝炎については抗ウイルス療法のみならず進歩により多くの患者さんの予後が改善されましたが、まだ未治療の患者さんが多数残されているため患者の掘り起こしに注力しています。また近年は、生活習慣が深く関与する非アルコール性脂肪肝疾患が増加しており、生活習慣病センターと連携して診断と治療、生活習慣への介入を行っています。そのため、患者さんには肝臓病教室や地域のセミナーを通して、病気に対する知識や理解を深めていただけるよう努めています（現在は新型コロナウイルス感染症の影響で休止中です）。

「肝疾患センター」は、肝臓病全般の診断や治療はもとより予防も含めて地域の先生方、さらには患者さんたちと一緒に病気に取り組むことを目指していますので、お気軽にご相談ください（窓口は消化器内科担当医）。

コアスタッフ

- 肝臓専門医・消化器内科専門医
- 消化器内科外来スタッフ（兼任）
- 生活習慣病センター認定専門看護師（兼任）
- 生活習慣病センター肝臓チームスタッフ（兼任）





県立加古川医療センター外来診療表

令和3年11月1日(月)～

		月	火	水	木	金
総合内科	初診	石田	大北	藤田	担当医	中村
消化器内科	1診	埴本(さかもと)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	廣畑(午前)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	埴本(さかもと)
	2診	廣畑	岡田	【担当医】	廣畑	森口
	3診				担当医	岡田
循環器内科	1診	福田	担当医(～14時)	岩田	片嶋	岩田
	2診	【禁煙】			【ペースメーカー】	笠松
脳神経内科		木村	木村	木村		渡部
糖尿病・内分泌内科	1診	飯田	藤田	飯田	石田	櫻谷
	2診		【大町】			
緩和ケア内科	入棟面談	担当医		担当医		担当医
	サポーターケア外来 (緩和ケア外来)	田中		田中		田中
生活習慣病		【尹(ゆん)】 肝炎	【戎谷(えびすたに)】 肥満		【石井】 肥満	
		【福田】 禁煙	装具外来			
リウマチ科	1診	田中	田中	田中	田中	担当医1
	2診	村田	塩澤	塩澤	塩澤	担当医2
	3診	西田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	4診	中川	【上藤】	村田	村田	中川
腎臓内科	1診	午後	加藤		加藤(1,3,5週)	
外科・消化器外科	1診	高瀬	衣笠	小林	担当医	高瀬
	2診	多田羅(たたら)	川嶋	門馬(もんま)		【衣笠】
心臓血管外科			担当医			担当医(午後)
脳神経外科	1診	担当医	森下	森下	担当医	相原
	2診		荒井	荒井		森下
乳腺外科	1診	石川	石川		石川	担当医
	2診	小林	担当医		小林	
整形外科	初診 1診	原田	中川	高山	青木	
	初診 2診	高原		市村	西原	
	再診 1診	【青木】		原田	【高山】	
	骨粗鬆症	午後	【上藤】		【市村】	
形成外科	1診	櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2診	谷口		谷口	谷口	谷口
	3診	【町田】		【町田】	【町田】	【町田】
皮膚科	初診/予診	【北尾】	【原田】	【高井】	【横山】	【北尾】
	1診	横山	足立	足立	増田	足立
	2診	原田	北尾	増田	原田	横山
眼科	1診		薄木	石川	薄木	薄木
	2診	徳川	徳川	徳川		
	3診	秋田	秋田	秋田		
泌尿器科	1診	丸山	脇田	田中	丸山	田中
	2診		大場			大場
放射線科	(IVR)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	(治療)	担当医	担当医			担当医

予約受付時間(拡大しました) 平日 9:00～18:30 土曜日 9:00～11:30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※【 】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。